

音楽的な見方・考え方を働かせる常時活動について

1 本研究における常時活動のねらい

「常時活動」は、授業の冒頭や終わりに5～10分程度の時間で、歌唱活動やリズム遊び、音楽ゲームなどを行うものである。継続的に取り組むことで、児童に音楽に対する抵抗感を軽減させ、音楽科の学習に必要な基礎的な知識・技能の育成につなげることをねらいとしている。

今年度、音楽づくりの活動について研究を進める過程で、授業のねらいを達成することは、現状の児童の知識・技能では非常に困難であることに気付いた。

そこで、題材に関連した知識・技能が身に付く常時活動や音楽的な発想を得ることができそうな常時活動を、普段の授業でも行うこととした。

内容は、ワークショップ型の研修及びミニ研修で交流した活動や、以前から行っていた常時活動に、題材のねらいと関連付けた活動を組み合わせたものがある。

児童と教師と一緒に楽しみながら継続的に取り組むことで、児童の基礎的な知識・技能が身に付いただけでなく、音楽科の授業を心から楽しむ児童が増えてきた。このことから、子供たちが生き生きと学び合うためにこのような常時活動は必要不可欠だと考え、研究に関わる取り組みとして設定した。

2 各学年で取り入れた常時活動

| 学年 | 内 容 |
|----|--|
| 1年 | 【題材名】「ねこのなきごえで あそぼう」 |
| | 【活動のねらい】 様々な声の音色の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、声で表現することに抵抗を無くすこと |
| | 【児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素】 声の高さ、長さ、音色 |
| | 【常時活動】 ・ 動物の鳴き声リレー ・ ボールの高さを声で表そう ・ いろいろな声で「こげよマイケル」 |
| 2年 | 【題材名】「おまつりの音楽をつくろう」 |
| | 【活動のねらい】 おまつりの音楽をつくる活動に意欲を持ち、いろいろなリズムを組み合わせて演奏することで、児童同士が抵抗感なくお互いの感じ方や表現を交流し、試行錯誤しながら音楽をつくる楽しさを味わうことができるようにすること |
| | 【児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素】 リズム |
| | 【常時活動】 ・ 拍打ち・リズム打ち ・ 手拍子合わせ・手拍子回し ・ 三時のおやつ ・ 口唱歌 ・ 和太鼓などの楽器を使ったリズム打ち など |

| | |
|--------|--|
| 3 年 | 【題材名】「チャチャチャのリズムで遊ぼう」 |
| | 【活動のねらい】 ラテンのリズムに慣れ親しんだり、反復・変化・音の重なりのおもしろさに気付いたりすること |
| | 【児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素】 反復、変化、音の重なり |
| | 【常時活動】 ・ 拍打ち・リズム打ち ・ 手拍子合わせ ・ 三時のおやつ ・ 手拍子回し ・ 楽器を使ったリズム打ち ・ 様々な楽器の調べ学習 |
| 4 年 | 【題材名】「早口言葉でラップを楽しもう！」 |
| | 【活動のねらい】 自然に学習の手掛かりとなるように、拍を感じたり、リズムパターンが作り出す面白さに気付いたりすることができるようにすること |
| | 【児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素】 リズム 音楽の縦と横との関係 |
| | 【常時活動】 ・ リズム打ち（まねっこ・まねしない） ・ 三時のおやつ など |
| 5 年 | 【題材名】「沖縄の音楽をつくろう！」 |
| | 【活動のねらい】 沖縄の音楽の特徴的な要素に自然と気付かせること |
| | 【児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素】 旋律、リズム |
| | 【常時活動】 ・ 社会科で学習した沖縄の文化について振り返る。 ・ 沖縄民謡を視聴する。 ・ カトカトーンの使用に慣れ親しむ。 |
| 6 年 | 【活動のねらい】 フレーズのつなげ方や重ね方の特徴を、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、音楽の仕組みを用いて思いや意図に合った音楽をつくったりする活動を通して、五音音階の特徴や役割の面白さを生かして表現することに親しむこと |
| | 【拠り所となる要素】 縦と横の関係 |
| | 【常時活動】 ・ 「ハローハロー」で音の重ね方を体験 |